

第2次総合計画の進行管理及び事業評価等に対する総評

町 長

《その1》 重点課題6分野25項目の評価と今後の方向性に関する総評

(総 評)

評価を見ながら、目標達成のためには、次のような姿勢が必要だと感じました。いつも申している事柄ですが、事務執行に当たり配慮してください。

1 中身の検証を

制度の創設や実施することが目標となっていることについて、問われるのはその中身、実施することによりもたらされる効果です。実施したから完了ではなく、常に検証を行いながら、具体的な改善を行うこと。

2 放置は最悪

何の動きもなく進んでいないものがある。放置は最悪であることを肝に銘じ、業務の進行管理に努めること。

3 自らが汗をかく

住民との協働に関わること、新たな事業展開をするときなどには、当事者が実現したい事柄を理解し（気づき）、知恵をだし、実現に向け自らが汗をかく姿勢持つこと。

(個別事項に関する意見)

○ 人づくり分野

・ 少人数学級の取り組み

実施すること自体が目的ではなく、実施することにより期待される効果が目的であることを意識すべき。長期間実施してくれば、そのあたりの評価も行うべき。

・ まちづくりを創造する団体の育成

それぞれの団体が実現しようとする事柄について、自らが気づき、行動し、支援できる職員であるよう努めてほしい。

・ 生涯学習の推進

スポーツ大会の目的が、スポーツ振興、楽しみの創出や健康の維持であるならば、各種団体が主催する大会も目標設定に加えることも必要では。また、参加人数を増やすためには、新たな大会・行事を開催することよりも、現在実施している大会等の参加者を増やすため方策を考え、その措置を講ずることを優先すべき。

- 図書に年間貸出し冊数
住民ニーズに応え、適切な情報発信等により、図書館の魅力を増すことは大切なことで、貸出本数の増は喜ばしいこと。同時に、高齢化社会等を踏まえ、交通弱者等の皆さんが、本を借りて読めるような仕組みづくり(情報提供・貸出(配達)・回収)も考え、より開かれた図書館づくりにも配慮してください。
- 人権・同和教育研修
研修の際のアンケート結果等を踏まえ、住民ニーズに沿った研修会を体系的に行えるよう計画段階でしっかりと議論すべき(本来なら人権の種類に応じた年間計画の策定を)。なお、研修会参加者数が、目標の89.2パーセントで、過去3年平均より劣っているのに、一定の成果という評価は意味がよくわからない。
- 産業振興分野
 - 認定農業者の育成
認定農業者へのインセティブ施策も検討すべきでは。
 - 集落営農組織の法人化
集落営農のメリット等をよく説明しながら、粘り強く組織化に努めてください。
- 環境共生分野
 - 温室効果ガス
数値目標を達成しているからと安住するのではなく、やるべきことがあればどんどん取組んでいくことが大切(ごみ箱内故紙、昼休憩のPC・OFFの徹底等)。また、環境家計簿等家庭レベルでの取り組みは不十分。さらに、女性団体が研修等で取り上げるCO₂削減対策の具体的事柄について、町が周知に努めることなども取り組んでほしい。
- 健康づくり分野
 - 特定健診受診率
いろいろ努力しているのに成果が上がらない。一定の時期に、直接、未受診者に受診を呼びかけるような方法を考えてみては。
 - 大腸がん検診
保健推進員による意向調査票の回収等により、受診率が向上した。受診率が高くなったことをPRし、相乗効果を生むようなことも。
 - 要介護認定率
上昇の一途である。筋トレ等も歯止めとなる施策として確認できていない。さらに参加者数を増やして、施策効果の検証まで高めてほしい。

- ・ 65歳平均自立期間
要介護認定率とも関係することだが、検証を進めるとともに、町が積極的に推進しているグラウンド・ゴルフやノルディック・ウォークの効果についての調査・研究も視野に。
- ・ 乳幼児健診受診・指導率
乳幼児健診の受診率は、平成22年度よりやや下がっており、この向上に努めるほか、新生児訪問指導など子育て支援もしっかりと対応を。

○ 地域づくり分野

- ・ 道路の改良率
改良率は順調に推移しているが、近時の局地的豪雨による災害の頻発等を踏まえ、道路施設はもとより周辺部分も含めた安全管理に十分配慮すること。また、町の主要観光施策を踏まえ維持（美化）等の積極的な推進を。
- ・ 行政改革プランの推進
改革プランを淡々と推進するという基本姿勢ではなく、重要な個別的課題については、ダイナミックな展開を図るため、不断の努力を払うこと。
- ・ 自主防災組織等数
地域によって大きな格差がみられる。少ない地域については、役場サイドが出向き、自主防災組織か自営消防団を結成していただくよう働きかけよう。

○ 東郷湖活性化分野（東郷湖活性プロジェクト関係）

- ・ 東郷池の水質(COD)
海の水位の上昇等もあり数値上の改善は、困難な状況があるが、そもそも魚も住めないような現在の目標値には疑問がある。引き続き浄化対策を推進する一方で、県衛生環境研究所のいう五感という尺度で見た美化の推進にシフトすることも考慮すべきでは。
- ・ 観光人口（宿泊客）
平成21年度以降増加傾向にあることは評価できる。携帯電話のコマース、インバウンド促進策、旗艦旅館の努力、全国大会等のイベントの開催等によるものと思料されるが、この効果が全旅館に及ぶよう、ノルディック・ウォークやグラウンド・ゴルフを活用した更なる推進策を展開しよう。
- ・ シジミの漁獲量
米粒のような稚貝は分厚くいるということを知っている。今後の方向中、県の機関・町でそれぞれの役割で実践に向かうとあるが、そういうことは、早く実行に移すこと。
- ・ 地域資源の活用
「東郷湖・未来創造会議」を活用し、住民の参画を得ながら展開すること。